

海の作文コンクール講評

受賞されたみなさん、おめでとうございます。

日本は、四方を海に囲まれた島国です。海は私たちにいろいろな姿を見せてくれます。南国の太陽のもと青く透き通る美しい海、自然の荒々しい姿をむき出しにし荒い波が打ちつける北国の海。どんな表情を見せても、海は、昔から人々にとって身近な存在であり、愛され続けてきました。

みなさんは、「海」をテーマにして文章を書くことで、海のすばらしさや海を大切にしたいという気持ち、海からのメッセージなどをあらためて感じる事ができたのではないかと思います。これからも豊かな感性を大切にしたいです。そして、これからも海を愛する気持ちを持ち続けて欲しいと思います。

金賞 学習小学校 的崎 文香 さん（6年）

的崎さんは、12年間の人生を振り返り、自分が海といかに関わりながら成長してきたかについて作文を書きました。「海を見て育ち、遊ぶのも海、好きな食べ物も海、海が私の生活の一部になっています。」とあるように、淡路の海は、的崎さんにとって「大好きな故郷の象徴」とも言える存在です。高学年になって海の環境を守る活動に参加した体験は、これから先も、海の恵みに感謝し、守り続けたいという気持ちにつながるのではないかと思います。

銀賞 米田小学校 山下 奏都 さん（6年）

昨年、開港150周年を迎えた神戸港。山下さんは、この記念すべきお祝いの年に、かねてから関心の高かった地元兵庫の神戸港を訪れるとともに、神戸港がどのようにして発展し、いかにして震災の危機を乗り越えたかについて様々な視点から考察しています。震災で打撃を受けても、それをばねに奮い立っている神戸港の偉大さに関心し、誇りに思うという感想には、私も共感しました。将来、港に関わる仕事をしたいという夢を是非実現させて下さい。

銀賞 米田小学校 黒橋 海光 さん（5年）

様々な自然体験が楽しめる野外キャンプ。黒橋さんが今年の夏に体験したのは、ウミガメの放流が体験できるユニークなキャンプでした。日本でも数少ないアカウミガメの産卵地で、小さな子ガメが一步一步海に向かって進む姿に感動したときの心のときめきは、一生忘れないことでしょう。20年後、自分の子供と産卵に帰って来たウミガメの子ガメが巡り合うというストーリーを夢見て、環境保全のためにできることを、さっそく始めていきましょう。

銀賞 学習小学校 大草 湊都 さん（4年）

大草さんは、淡路島ならではの漁業体験に参加したことや、漁師の仕事をしているお父さんから聞いた話をきっかけにして、漁業や淡路の海について考えたことを、作文に書きました。海苔の製造過程では予想外の海苔の姿の変化に驚いたり、魚の住みやすい環境の大切さや海が豊かであることのありがたさを感じたりしました。淡路の海を大切に思う気持ちがさらに膨らんだのではないのでしょうか。